

大学院看護学研究科 博士後期課程		授業 科目	科学哲学特論 Special Topics of Philosophy of Science			担当 教員	松葉祥一(専任) 松田毅(非常勤)
開講年次	1年次後期	単位数	2単位	科目 分類	共通基盤科目	授業形態	ゼミ
選択必修	必修	時間数	30時間			使用教室	
授業の目的及びねらい		しっかりした知識の体系であるように見える科学を哲学の眼で考え直す。その眼を医学にも向けてみたい。					
授業のキーワード		科学の方法を理解する、科学の対象の身分を疑う、「科学的説明」の本質を理解する、現象学、解釈学					
講義回数	授業内容及び計画						
第1回	科学哲学とは何か?						
第2回	科学の方法について考える						
第3回	帰納と法則の問題						
第4回	「科学的説明」とは?						
第5回	科学の対象は「実在」するのか?						
第6回	科学理論の意味						
第7回	科学に関する新しい見方(1)						
第8回	科学に関する新しい見方(2) (以上松田担当)						
第9回	客観主義批判としての現象学(1)						
第10回	客観主義批判としての現象学(2)						
第11回	方法としての現象学(1)						
第12回	方法としての現象学(2)						
第13回	看護研究に現象学的方法は適用可能か(1)						
第14回	看護研究に現象学的方法は適用可能か(2)						
第15回	まとめ (以上松葉担当)						
テキスト	『科学哲学の冒険』戸田山和久、NHKBooks、『環境リスクと合理的意思決定——市民参加の哲学』シュレーダー＝フレチェット、松田毅監訳、昭和堂(松田担当) 授業中に指示します(松葉担当)						
参考文献	テキスト以外の関連文献は、授業時間内に指示します。						
成績評価の方法	プレゼンテーションおよび課題(60%) ディスカッション等による講義への貢献(40%)						
教員から学生へのメッセージ	現代の科学哲学が科学をどう捉えているかを学びます。また医療とも無縁でない「リスク論」の展開の中で新しい科学観を検討したいと思います(松田担当)。 客観主義への批判から始まった現象学が、「人間科学」の研究方法として採用されるようになった経緯を追いながら、看護研究に現象学的方法が適用可能かどうかを聞きたいと思います(松葉担当)。						